



学びを支える自立活動

◆ 「学びを支える」とは？

子どもたちは、自分の「願い」「希望」「夢」（個別の教育支援計画に記載）の実現を目指して学校での学習や生活を日々がんばっています。しかし、障害によって生じる困難さのため、学習面や生活面で十分に力を発揮できないことがあります。そうした状況を改善・克服するための学習が自立活動です。

上肢や下肢に障害がある場合の困難さとしては、例えば次のようなことが考えられます。

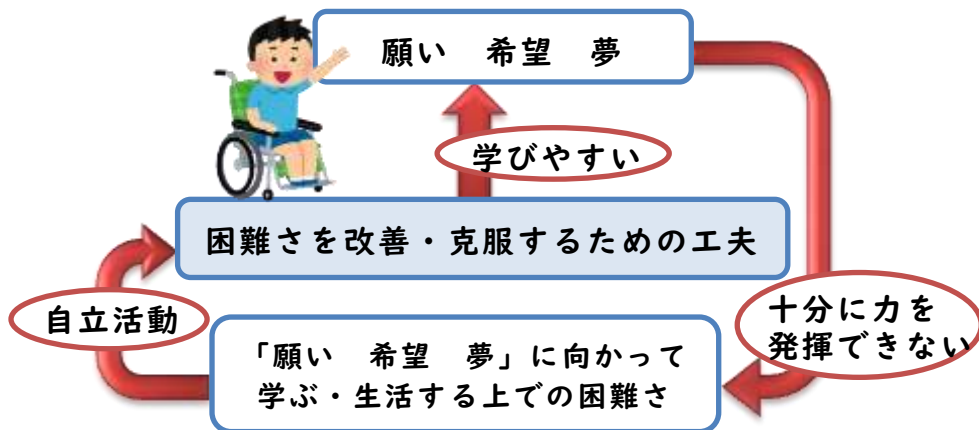
(例)・書字や食事動作などの細かい動きの難しさ

- ・ 図形や文字、空間認知などの捉えにくさ
- ・ 身体の緊張等による姿勢の崩れ
- ・ 言語の伝わりにくさ 等々

そのため

学習や生活で十分に力を発揮できない

逆に言えば、様々な工夫によってこうした困難を改善・克服できれば、学習や生活において今よりも力を発揮できる（学びや生活がしやすくなる）ということになります。それが、「学びを支える」ということです。



* 自立活動の目標や指導内容の設定などについては、本校ホームページ「きらりNet」より、No.93、103、110、113、123で述べていますので参考にしてください。

◆ 子どもの「良さ」を生かして

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編には、「調和的発達の基盤を培う」とは、「(中略) 発達の進んでいる側面をさらに伸ばすことによって遅れている側面の発達を促す(中略)」と示されています。子どもの得意な面をより伸ばしたり、困難を改善するために得意な面を生かしたりする視点が、「自分で考えて工夫しよう、やってみよう」という子ども自身の主体的な取組につながります。



(例)・聴覚からの情報の方が得意！

- ・ タブレットで文字入力できる！
- ・ 友だちや先生と関わるのが好き！

生かして

学習や生活で今までよりも力を発揮できる！

(文責：藤原 恵理子)

生徒の『願い』から学習計画を立てる自立活動の実践

生徒 A さんは『自分の願いに基づいて学習計画を考える自立活動』の学習を、小学部の頃より継続しています。本稿では、中学部に進学して取り組んだ実践を紹介します。

① A さんの願い



バスや電車に乗って、いろいろな場所に校外学習に行きたい！
（コロナ禍の影響もあり、出かける経験が少なかったため）

② 学習計画の話し合い

- ・どこに行こう？ → 「学校の近くのイオンモール秋田に行きたい」
- ・どうやって行こう？ → 「路線バスに乗りたい」

★これまで公共交通機関を利用した経験が少なく、乗車・降車の仕方がやや不安・・・。

③ 計画実行

バス停やバス時刻、料金等は事前に調べていったので問題ありませんでした。難しかったのが、「整理券を持ちつつ、財布からお金を取り出し、一緒に払う」という動作で、先生の手伝いが必要でした。

④ A さん自身の振り返り

- ・「路線バスの乗り方が分かった」「財布から小銭が取り出しにくかった」
→ 「次に行くときは、取り出しやすい財布を準備する」

今後も活動を通して生活経験を増やし、自己理解と社会見聞を深められるように支援をしていきます。
（文責：菊地真智子）



教育専門監のつぶやき

「④振り返り」では、A さん自身が実体験を通して次の改善点を見出しています。実は今後、バス運賃の支払いとして AkiCA を購入予定だそうです。バスの乗車手続きを細分化してみると、「乗車時に整理券を取る→降りる前に降車ブザーを押す→鞆から財布を取り出す→財布から料金を取り出す→財布を鞆にしまう→整理券と一緒に支払う」という多くの動作が必要です。IC カードの利用については、電車の利用を見据えて Suica も考えてい

～上記の実践のポイント～

るとのことでした。財布からお金を取り出す練習ももちろん必要ですが、このような便利なツールを有効活用することは、今そして卒業後の生活（通学・通勤・余暇等）につながります。併せて、社会科の「金融」と関連付けると仕組みや注意点について学び、IC カードの自己管理につなげることができます。

本事例のポイントは、『体験を通して自ら課題に気づき、改善しようとする意欲』です。（文責：藤原恵理子）



教頭 佐藤 茂樹 地域支援部主任 高橋 亜紀

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>